

一般用医薬品の適正使用を指向した
小中学生のための体験型リテラシー教育教材の開発

金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授

あらい くにぞう
荒井 國三

一般用医薬品の適正使用を指向した 小中学生のための体験型リテラシー教育教材の開発

金沢大学医薬保健研究域薬学系 荒井 國三

(〒 920-1192 石川県金沢市角間町 076 - 264-6224)

要旨

一般用医薬品の利用には、消費者自身が「利便性」と「安全性」を考え使用することが求められている、さらにその時にどのような情報が科学的に信頼出来るかを判断する「科学リテラシー」も消費者側に求められている。我々の調査研究から、今まで有効な消費者教育が行われてこなかったことが示唆された。平成 24 年度から中学校新学習指導要領に則り、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことを主目的として「くすり教育」が中学校 3 年生を対象に完全実施されている。1) そこで小中学生の一般用医薬品使用のリテラシー教育教材の開発を行うと共に、開発した教育教材について評価した。

1. 目的

一般用医薬品の適切な利用には薬や健康商品に対する正しい知識を子供のころから身に付ける必要がある。2, 3, 4, 5) しかし、一般用医薬品のリテラシー教育の適切な教材とそれを行う指導者が不足している。そこでリテラシー教育教材として薬剤師教育のコースをイメージして、WEB アプリと薬局実技から構成した「キッズ薬剤師の道」を作成する。また、子供の薬の服用の現状における問題点や課題を明確化するため子供の薬の服用に関する保護者の意識調査を実施する。

2. 調査研究方法

2-1. リテラシー教育教材として「キッズ薬剤師の道」作成とリテラシー教育教材を用いた教育実践

小中学生への一般用医薬品のリテラシー教育教材として「キッズ薬剤師の道」を開発する。この教材は医薬品使用のリテラシー教育の導入の位置づけであり、薬剤師教育のコースをイメージして、WEB アプリ (クイズ) 「薬の勉強にチャレンジ」「薬作りにチャレンジ」「薬の研究にチャレンジ」,

実験「薬の研究にチャレンジ」と薬局実技「薬局実習にチャレンジ」から構成されている（図1）。修了後に学習のモチベーション維持のために、「キッズ薬剤師証」を発行する。（参考資料）

① 「薬の勉強にチャレンジ」WEB アプリ制作

目的：薬に関する理解のため、興味関心を獲得し薬の教育への導入を図る。

概要：小学生ならびに中学生を対象に薬への理解を得るため、利用者が楽しみながら必要な知識を自然に獲得するクイズ方式にし、ゲーム感覚やストーリー性を持たせることで学習ハードルを低くし、興味関心を得るようにする。そこでモチベーションをつくり、今後の学習につながる受講証を発行する。

② 「薬の研究にチャレンジ」

「薬の勉強にチャレンジ」WEB アプリで身につけた薬の飲み方、効き方、相互作用などの薬の知識を、簡単な実験を通して、体感することで知識の定着化を図る。

③ 「薬局実習にチャレンジ」

目的：普段なかなか見ることのない調剤業務を体験して、薬剤師の仕事について関心・興味を持つきっかけにする。

対象：薬剤師体験の内容は小中学生向け。ただし、希望があれば高校生や大人の体験も受け入れる。

概要：模擬処方箋を用いて調剤業務を体験する。一連の調剤業務である処方箋監査、薬袋作成、調剤（計数調剤、計量調剤、水剤、軟膏）、調剤監査についてお菓子を模擬薬として使用し体験する。

2-1-1. 実践効果の評価

中学生の医薬品や健康に関する知識の実態とリテラシー教育の教材の「キッズ薬剤師の道」の有用性について、金沢大学医学展および金沢市内の薬局において試行し、アンケート調査を実施した。回答方法は、選択式で、授業実施前に事前アンケートを行い、児童が薬に関する正しい知識を持っているか、その後、事後アンケートを実施し、授業による効果を評価した。

【方法】

対象：参加を希望した小中学生

概要：医薬品の主作用、副作用、用法用量、薬剤師への相談、一般用医薬品についての理解や満足度をアンケート調査で教材使用前後で比較した。

2-1-2. 結果・考察

2-1-2-1. 「薬の勉強にチャレンジ」WEB アプリの評価

WEB ゲーム前と後で薬の飲み方に関する問題の正答率を比較した。（表1 および図2）。

いずれの設問についても、ゲーム前の高い正答率を示しており、薬の飲み方について十分な知識をもっていることが示唆された。WEB ゲームを行った後はほぼ100%の正答率を示し、知識の伝達に関してWEB アプリは有用と考えられた。しかし、多くの設問に関して既に高い正答率を示していることから、設問の内容をより高度な内容し既に学んだ知識の理解度を高める設問に変更することが必要と考えられる。

2-1-2-2. 薬の研究にチャレンジ および薬剤師体験の満足度

薬の研究にチャレンジ および薬剤師体験の満足度等についてアンケートで調査した結果を以下に示す (n=139).

Q1. 今日の薬剤師体験は楽しかったですか?

ほぼ全員が“楽しかった”と回答し、満足度が高いことが示された。

Q2. 薬剤師体験の内容はわかりましたか?

内容について“わかった”と答えたものが96%とほぼ全員が理解したことが示された。

Q3. 薬剤師のお仕事に興味を持ちましたか?

この体験の結果、薬剤師の仕事に興味を持ったかについて、55%が興味を持ったと答えたが、21%が興味を持たなかったと回答した。

2-2. 子供の薬の服用に関する保護者の意識調査

子供の薬物療法においては服薬コンプライアンスが大きな問題として存在している。家庭内での服薬は家庭状況や患児の年齢、経験など様々な要因に左右されるが、さらに保護者の係わり合いが存在する。薬剤の服用方法として、保護者は様々な食物や資材を使用して薬剤を服用させることがあるが、どのような方法が家庭内で行われているかという情報を収集することは子供の薬の服用の現状における問題点や課題を明確化し、服薬方法の工夫等の適切な情報を保護者に提供することが患児の服薬アドピアランス向上へ繋がる。また、子供のニーズに合った薬育授業の構築・実施にも有益と考えた。

【方法】 本調査は、子どもの薬（飲み薬）に対する親の知識と意識を把握するために、「薬の勉強にチャレンジ」WEBアプリを体験した小中学生の保護者を対象に、2017年11月2日～3日の期間に実施した。アンケート項目は2015年にインターネット調査が実施された、日本調剤・乳幼児の親を対象とした『子どもの薬に関する調査』（<https://www.nicho.co.jp/corporate/info/12604/>）を参照した。6) 有効回答数: 75名

2-2-1. 結果

- 子どもの体調が悪くなった時の対処としては、8割以上（87.0%）がまず「病院・診療所などの医療機関を受診する」と回答した（Q1）。
- これまでに子供が薬を嫌がったり、飲まなかったことがあると答えたのは54.7%あった（Q2）
- 嫌がった薬は「散剤（粉薬）」（51%）が最も多く、錠剤（25%）で子どもが飲みやすく工夫しているシロップでも16%で嫌がった。「散剤（粉薬）」、「錠剤」を嫌がる子どもが多いようだ（Q3）。
- 子どもに薬を飲ませる方法で最も多いのは「そのまま飲ませる」（65%）、次に多いのは「ジュースなど飲み物に混ぜる」（10%）となった。そのまま飲ませている親が多い（Q4）。
- 子どもの薬に関して、重要な注意点「年齢・体重によって薬の量が異なる」、「薬の飲み合わせには注意が必要」に関しては、8～9割の多くの親が理解・把握しているが、「薬の使用方法・使用量」については70%程度が理解している。

Q5 薬の使用方法・使用量が、わからなかったり、迷ったことはありますか。（回答は1つ）

はい:16 (23.2%) いいえ:53

Q6 子どもの薬の量(服用量)は、年齢や体重によって異なることは知っていますか。(回答は1つ)

はい:69 (100%) いいえ:0

Q7 飲み合わせてはいけない薬があるのは知っていますか。(回答は1つ)

はい:63 (91.3%) いいえ:6

• 子どもに薬を飲ませる場合に感じている不安・疑問のトップ4は以下の項目だった (Q8).

1位「副作用がないか」

2位「薬を飲ませてすぐに吐いてしまった場合、また同じ量を与えるべきか」

3位「残った薬は、また同じ症状が出たときに使っていいか」

4位「医療機関にいけない場合、市販の子ども用の薬を飲ませていれば大丈夫か」

• 急病などで子ども用の薬のストックがない場合、大人用の薬で代用したことがあるものは11.6%と低かった (Q9)

• 飲み残した薬(残薬)があった場合は、「保管しておく」が73%、「処分する(捨てる)」27%となった (Q10)

2-2-2. 考察

小児医療において、薬物療法は高い割合を占めているが、患児の服薬困難により苦労している保護者は少なくない。保護者が散剤を服用させる際に、保護者の考えや患児の反応をもとに様々な方法で服薬をさせていた。服薬コンプライアンスがよければ、水に溶解、懸濁させて服用させているが、コンプライアンスの悪い患児に対しては身近な食品と共に服薬させる傾向があった。服薬を補助する専用の資材であるオブラートや服薬ゼリーなどを使用する保護者はほとんどいなかった。また、服薬指導の際には患者の嗜好と薬剤の特性を考えて、積極的に適切な服薬方法を提案していく必要がある。

3. まとめ

我々は、平成28年度に「連携・協働による消費者教育推進事業」における消費者教育推進のための実証的共同研究(文部科学省)事業名:「保険薬局薬剤師によるヘルスケア商品に対する消費者サポート」の研究において特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品やサプリメントなどの健康食品やセルフメディケーションを支えてきたOTC医薬品などのヘルスケア商品を適切に消費するための、保険薬局薬剤師と大学研究者による消費者教育推進を検討し、さらに10歳代、20歳代のヘルスケア商品に対する消費行動について調査した。高校生では21%、大学生において34%が健康食品を使用していた。また、「健康食品で病気は治る」と間違えて理解しているものが60%おり、さらに、「体の具合が悪くなったとき、医療機関に受診しないで」健康食品やサプリメントを服用するものが少なからずいることが分かった。7)健康食品に関する知識について、2012年に

中西らによって行われた調査と比べ改善が見られなかった。このことから有効なヘルスケア商品消費のリテラシー教育が十分されていないことが示唆された。そこで金沢大学薬学類でヘルスケア商品の消費者教育関連セミナーを実施し、学生を中心に教育用の資料を作成した。将来、薬の専門家として地域のトータルヘルスケアに必要な医薬品ばかりでなくヘルスケア商品の情報を適切に消費者に伝えることのできるリスクコミュニケーション能力を持った人材の養成の必要性を認識できた。今回の研究において薬育授業を行う薬剤師が共通して使用でき、かつ児童が能動的に参加できる薬育授業のシステムを構築した。本システムを使用し“町の科学者”である薬局薬剤師が地域カフェや公民館で地域住民に対してヘルスケア商品の啓蒙活動を行うことは有益と考えている。

引用文献

- 1) 宮本法子. 国民に対するくすり教育の法的変遷とその重要性. 薬学雑誌, 136,1001-1015, (2016).
- 2) 富重 恵利紗, 河内 明夫, 柴田 由香里, 園田 純一郎, 鳴海 恵子, 山田 勝士, 本屋 敏郎. 児童・生徒を対象としたくすり教育教材”作成演習のくすり教育に対する薬学生の認識に及ぼす効果. 医療薬学, 37, 495-502 (2011).
- 3) 寺町 ひとみ, 太田 拓希, 香田 由美, 鬼頭 英明, 駒田 奈月, 志賀 仁美, 田村 顕人, 館 知也, 土屋 照雄, 勝野 眞吾. 小・中・高校生の「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識および指導実施状況. 医療薬学, 38, 767-779 (2012)
- 4) 小谷 悠, 水野 智博, 桑原 宏貴, 安藤 雄, 伊東 和真, 新美 友世, 大橋 美月, 浅井 玲名, 肥田 裕丈, 平林 彩, 室崎 千尋, 加藤 博史, 野田 幸裕, 鍋島 俊隆. 児童向けくすり教育への薬学生の参画. 薬学雑誌, 130,857-866(2010).
- 5) 宮本 法子 一般用医薬品のインターネット販売の規制緩和とくすり教育の緊急性
薬学図書館, 4, 252-254(2014).
- 6) 日本調剤・乳幼児の親を対象とした『子どもの薬に関する調査』 (<https://www.nicho.co.jp/corporate/info/12604/>)
- 7) 平成 28 年度「連携・協働による消費者教育推進事業」における消費者教育推進のための実証的共同研究報告書(文部科学省) 「保険薬局薬剤師によるヘルスケア商品に対する消費者サポート」(事業推進代表者 荒井國三)(2017年3月)

(表図)

リテラシー教育教材の概要



図1. リテラシー教育教材の概要

(2-1. リテラシー教育教材として「キッズ薬剤師の道」作成とリテラシー教育教材を用いた教育実践)

表 1. WEB ゲーム前後の薬の飲み方に関する問題の正答率

	ゲーム前	ゲーム後
Q1 カプセルは飲みにくいから、中身を出してのんでもいい？	0.826	0.987
Q2 病気がよくなってきたから、薬局でもらってきた薬をのむのをやめてもいい？	0.8597	0.994
Q3 寝坊して、朝ごはんを食べられなかったので、食後に飲む薬はのまなくてもいい？	0.819	1
Q4 薬局でもらったかぜ薬を、弟も熱が出たのでかぜ薬をあげてもいい？	0.893	0.993
Q5 薬は苦いのでジュースと一緒にのんでもいい？	0.879	0.993
Q6 錠剤は、かみ砕いて飲むと早く効くの？	0.752	0.987
Q7 錠剤やカプセルなら水なしで飲んでもかまわない	0.819	1
Q8 早くかぜを治したいから、お医者さんが言った2倍の薬をのんでもいい？	0.940	1

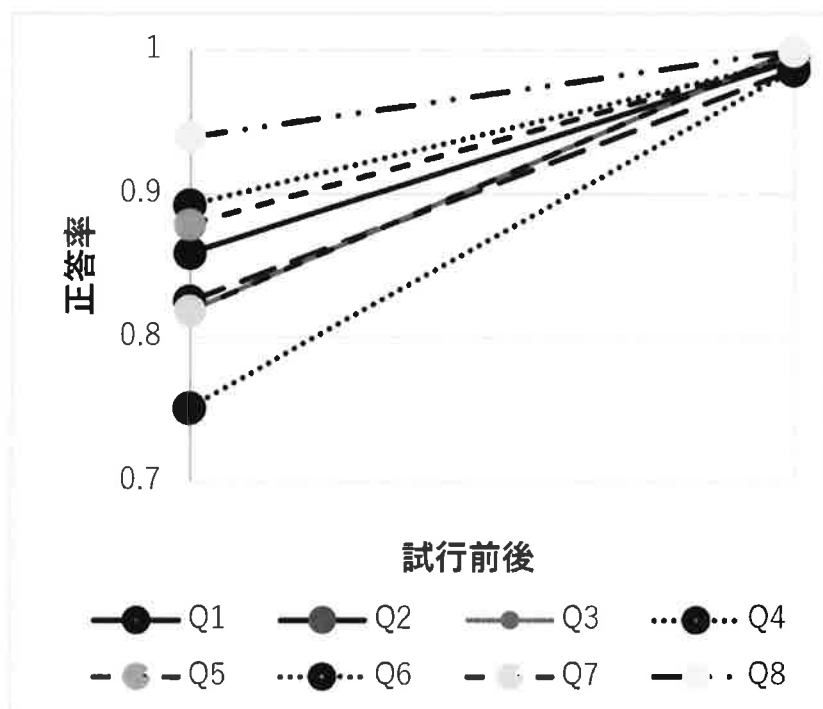
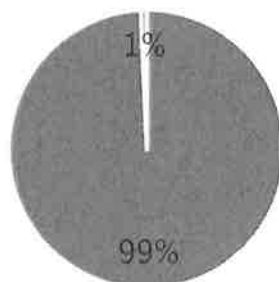


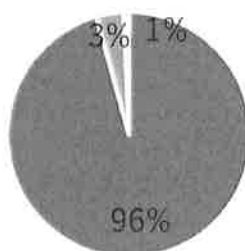
図 2. WEB ゲーム前後の薬の飲み方に関する問題の正答率の変化

Q1 今日の薬剤師体験は楽しかったですか？



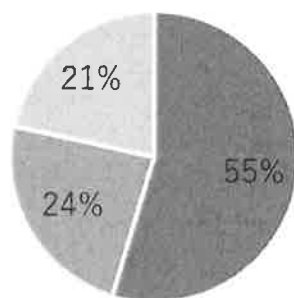
■ 楽しかった * まあまあ楽しかった ■ 楽しくなかった

Q2 薬剤師体験の内容はわかりましたか？



■ わかった * まあまあわかった ■ わからなかった

Q3 薬剤師のお仕事に興味を持ちましたか？



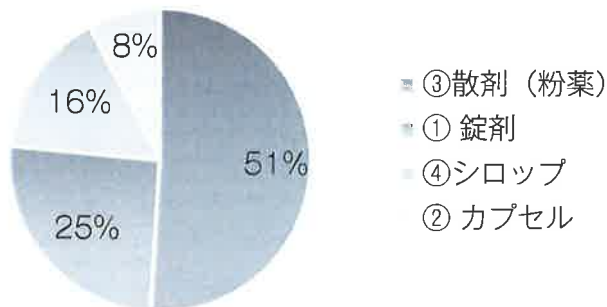
■ 興味を持った * まあまあ興味を持った

(2-2. 子供の薬の服用に関する保護者の意識調査)

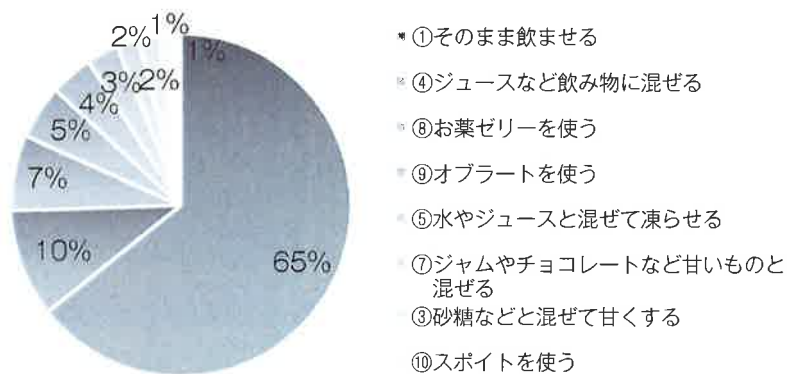
Q1 あなたはお子さんの体調が悪くなった時、まずどのような対処をすることが多いですか



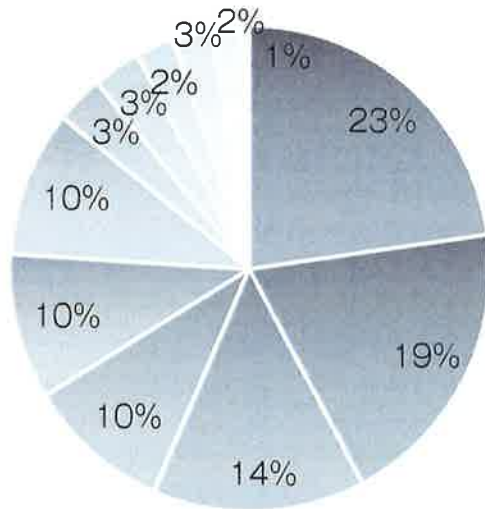
Q3 「嫌がったり、飲まなかった薬」はどのような形態ですか。(回答はいくつでも)



Q4 あなたが、お子さんに薬を飲ませる場合とっている方法をお答えください。(回答はいくつでも)

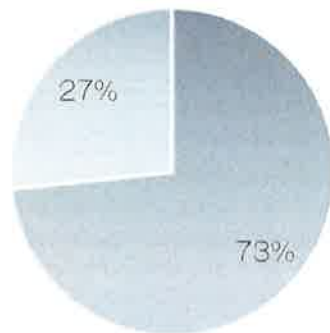


Q8 子どもの薬について、以下のような不安・疑問を感じたことはありますか。（回答はいくつでも）



- ①副作用がないか
- ②薬を飲ませてすぐに吐いてしまった場合、また同じ量を与えるべきか
- ⑤残った薬は、また同じ症状が出た時に使ってもよいか
- ③医療機関にいけない場合、市販の子ども用の薬を飲ませていれば大丈夫か
- ④薬を飲ませているのに良くならない場合はどうしたらよいか
- ⑧病気が治ったと思ったら、自己判断で薬を止めてもよいか

Q10 飲み残した薬（残薬）がある場合はどのようにしていますか。（回答はいくつでも）



- ②保管しておく
- ①処分する（捨てる）

参考資料：キッズくすりの大学 キッズ薬 剤師への道

① 薬の勉強にチャレンジ（アプリ）

概要：小学生，中学生を対象とした薬に関する理解のために，クイズによるゲーム性やストーリー性を持たせることで学習ハードルを低下させ，興味関心の獲得及び薬剤師教育への入り口をWebアプリケーションにて実現する．アプリ利用者が楽しみながら必要な知識（クイズ）を自然に獲得（クリア）することができ，薬学へのモチベーションをつくり，今後の学習にもつながる受講証を発行する．

システムの仕様

- 基本ステージ3つ及び最終ステージでクイズが構成され，基本ステージは3つずつクイズを出題し，ランダムに選出された全10問を出題する
- 最終ステージは，正解数によって難易度が変化し，これまで解いた全10問のクイズを再度出題する
- 回答は全て○×で回答でき，正解した場合は称賛する言葉を表示し，間違えた場合は理解しやすいフィードバックの文を表示する
- 1問回答するごとにそのフィードバックと，現在の正解数など状況を把握できる数値を表示する

Web ページの仕様

- クイズ及び回答する場所が直感的に理解できる
- 正解した場合と不正解した場合のデザインを明確にする
- クスリという観点から，デザインを作成し，小学生，中学生を対象としたデザインとする
- キャラクターは手動又は自動でアニメーションする
- 著作権に抵触する恐れのある場合は，デザインを変更する
- デザインは，内容がしっかりと伝わる品質を保つ解像度とする
- 問題を最後まで答えたユーザには受講証を発行する



(WEB アプリ画面キャプチャー)

(問題例)

- Q1 カプセルは飲みにくいから、中身を出してのんでもいい？
- Q2 病気がよくなってきたから、薬局でもらってきた薬をのむのをやめてもいい？
- Q3 寝坊して、朝ごはんを食べられなかったので、食後に飲む薬はのまなくてもいい？
- Q4 薬局でもらったかぜ薬を、弟も熱が出たのでかぜ薬をあげてもいい？
- Q5 薬は苦いのでジュースと一緒にのんでもいい？
- Q6 錠剤は、かみ砕いて飲むと早く効くの？
- Q7 錠剤やカプセルなら水なしで飲んでもかまわない
- Q8 早くかぜを治したいから、お医者さんが言った2倍の薬をのんでもいい？

② 薬の研究にチャレンジ (演示実験)

Q1 カプセル剤は水と一緒に飲まなくてもいい？

準備：時計皿・薬包紙・セルロースカプセル・蒸留水

操作：セルロースカプセルを濡れた手で触って、食道内でどのように変化するかを調べる。

手順：カプセルを飲む場合、水の量の違いでどのようになるかを以下のように比較する

(1) 水で飲まずにカプセルを飲み込んだ場合、少量の水で飲みこんだ場合、

少量の水で、カプセルを触ってみる。

→カプセルは指の皮膚にべったりとくっつく。

→食道の粘膜にくっついてしまう。食道炎を起こす恐れがある。

(2) コップ一杯の十分な水でカプセルを飲んだ場合、

大量の水につけたカプセルを触ってみる。

→カプセルはゆっくりと溶けていった。指にはくっつかない。

→水と一緒に食道を通り、胃の中で水に溶け、体に吸収されやすい状態になる。

Q2 薬は苦いのでジュースと一緒にのんでもいい？

実験1 クエン酸(ジュース)と重曹(胃薬)との反応

準備：

・クエン酸(かんきつ類などに含まれる有機化合物) …オレンジジュースの代わりに使用

・重曹(炭酸水素ナトリウム) …胃薬の代わりに使用

操作：胃薬の成分である重曹をオレンジジュースなどのかんきつ系飲料と一緒に服用するとどのような変化をするか調べる。

手順：

(1)クエン酸(適量)を水に溶かす。

(2) (1)に重曹を加える。

←大量の泡が出る。

→胃に届く前にクエン酸と反応して中和してしまう。

実験-2 鉄剤とお茶の成分との反応

準備：

- ・鉄剤のフェロミア液<フェロミア錠>(クエン酸第一鉄ナトリウム)
- ・緑茶・試験管・

操作：フェロミア錠をお茶と一緒に服用した場合に、胃の中でどのように変化するかを調べる。

手順：水のフェロミア液とペットボトルのお茶を加えると黒色に変化

実験3 配合変化が問題になる薬剤

メネシットは、アルカリ性下において、酸化分解し、メラニンを生じ黒色化する

準備：

マグミット錠 330

メネシット錠

手順：

- (1) カップを2個用意し、約55°Cの温湯約20mLを入れる
- (2) 両方のカップにメネシット錠を1錠ずつ入れる。
- (3) 片方にマグミット錠を加え、色の変化を観察する。

Q3 軟こうとクリームって何がちがうの？ぬりぐすりの特徴

同じ成分のぬりぐすりでも水洗いで落としやすいものと、落としにくいものがある。症状によって、性質の違うぐすりが使い分けられていることを理解する。

実験に使用した薬剤名(製品名)

ヒルドイドソフト軟膏

ヒルドイドクリーム

手順：左手の甲にヒルドイドクリームを、右手の甲にヒルドイドソフト軟膏を塗布し、どちらが脂溶性でどちらが水溶性かが目で見てわからないことを観察する。

両薬剤を、流水をかけながら指でこすった結果、洗い流されない様子、洗い流される様子に違いがあることを確認する。

Q4 どうして胃の中でとけないの？

「オメプラゾール腸溶錠の実験」

実験原理：オメプラゾールは腸溶錠である。腸溶錠はフィルムコーティングがされているため、胃液と同じpH1.2にした溶液では溶解せず、腸液と同じpH6.8にした溶液では溶解する。

実験に使用した薬剤名

(製品名)

オメプラゾール (オメプラール®錠 10)

手順：

- (1) ビーカーに崩壊試験用第 1 液, 第 2 液をそれぞれ 200mL 入れる。
- (2) オメプラール®錠 10 をそれぞれのビーカーに 1 錠ずつ入れて, 攪拌機 (スターラー) の回転数を 180rpm にセットし起動させる。
- (3) 錠剤の状態を確認する。

Q5 粒の色がちがう理由は？

実験原理 (化学式) 「新コンタックかぜ総合」カプセルの中には速放性の粒 (白色), 徐放性の粒 (橙色) が存在している。

実験に使用した薬剤名 新コンタック®かぜ総合

手順：

- (1) カプセルから粒を取り出し, 色ごとに分ける。
- (2) ビーカーに水を入れ, それぞれ違う色の粒を入れて攪拌機 (スターラー) で混ぜる。
- (3) 速放性の粒がすべて溶解した時間での徐放性の粒の残りの状態を確認する。

③ 薬局実習のチャレンジ (実演)

内容：模擬処方箋を用いて調剤業務を体験していただく

目的：普段なかなか見ることのない調剤業務を体験していただくことで, 薬剤師の仕事について関心・興味を持つきっかけにさせていただく。

対象：薬剤師体験の内容は小中学生向け。ただし, 希望があれば高校生や大人の体験も OK。

<流れ・仕事内容> ※カッコ内の時間は各セクションの必要時間の目安

- ① 受付 (1分)：業務体験で用いる模擬処方箋の交付と白衣の貸し出し。参加者の人数のチェックをお願いします。また, 小中学生参加者の保護者や高校生以上の参加者に健康食品についてのアンケートの協力を依頼します。(二日で 50 人を目標) 手が空いているときは呼び込みをお願いします。
- ② 処方箋監査・薬袋の作成 (3分)：処方監査についてパネルを使って簡単に説明したのち, 参加者に薬袋へ名前や用法・用量などを記入してもらいます。薬袋記入の際に記入箇所や内容の確認や動作補助をお願いします。
- ③ 調剤 (5分)：ヒート状になっているお菓子 (ハイレモン, ヨーグレット, プチプチチョコの三種のうち二種類, ピッキングする薬剤は模擬処方箋ごとに違う) を薬剤に見立てて, 模擬調剤を行います。模擬処方箋をみて, 各薬剤が何個必要か, また, 薬剤は正しく選んでいるかなどの確認や動作補助をお願いします。

その他このセッションでは、実際の現場で用いられている自動分包機等の機器についてはパネルまたは動画（PC画面）を用いて紹介する予定です。（自動分包機などの紹介に関しては、特にお願いするお仕事はありません）

- ⑤ まとめ（5分）：パネルで調剤監査の説明を行ったのち、参加者自身の調剤したものを用いて汚れや破損がないか、個数はあっているかなどの確認をさせる。間違いがなければ模擬薬剤を薬袋から出して（※）、模擬薬剤、薬袋、まとめのプリント、模擬薬剤はお菓子であることを書いた注意書きの紙の4点を袋に入れて参加者にお渡しする。

※用いたお菓子を医薬品と勘違いされると問題になるので、必ず薬袋から出してください。

軟膏づくり☆ 2種類の軟膏（ピーナツバター＆ホイップクリーム）を混ぜて容器に詰める
錠剤の粉碎：錠剤を飲むことが難しい患者様に粉碎して処方します*

粉碎の工程をラムネで体験☆

～準備が必要なもの～

受け付け:看板, アンケート用紙, 筆記用具, 回収箱, 模擬処方せん（ラミネート加工）

処方箋監査：説明用パネル

薬袋：薬袋, 筆記用具

調剤：模擬錠剤, 調剤台, 調剤の説明用パネル（自動分包機, 水剤, 一包化など）またはDVD

監査：説明用パネル, 調剤についてまとめたプリント, 注意書きの紙,

④ 「キッズ薬剤師免許証」を授与

